性転換で⇔リア充ライフ！

エンナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
性転換で⇔リア充ライフ！

【Ｎコード】
Ｎ５２３６Ｙ

【作者名】
エンナ

【あらすじ】
朝起きて部屋にある姿見を見るといつもと何かが違う。　あれ？
俺ってこんな可愛かったｋ……ってなんじゃこりゃーーー！！？
ある日ふと性転換しちまった男子校生のお話！

いちわ：じゃあこれはなんだ

俺は部屋にある姿見で自分の見た目を確認した。
どう見ても、いつもの俺とは違う容姿。
ふっくらとした体つき。　出る場所はしっかり出ている。
「……女になっちゃった？」
恐る恐る確認するように言った。
まさかなー、そんなラノベとか漫画みてーな展開ねーよなーハハハ。

じ　ゃ　あ　こ　れ　は　何　だ　？

現実だーーーーーーーーーーーーー！！！
心の中でありえないぐらい叫ぶ。
「龍介（りゅうすけ）ー？おきなさーい」
龍介？！それ俺の名前……っつーこたあ、みんなの記憶の俺という男はけんざ――
ガチャ、とドアが開き、お袋が入ってくる。ノックしろクソババア。
「あら？龍介の彼女？可愛いわね」
え、可愛い？
そう言われ、俺は姿見をのぞく。　まあ確かに可愛いっちゃ可愛……じゃねーよ。
「お、お袋、俺どーしよ」
「……」
無視かよ！無視なのかよ！
「……きっと疲れてるんだわ」
なかったことにしやがった！め●”かボックスじゃねーんだから！！
俺ですよーーーー！！あんたの息子だよーーー！
「兄ちゃん遅刻するよー」

おお！お前は我が弟の竜太（りゅうた）！
「……」
「……？」
「母さーん、オレまだ眠いみたい」
お前もかい！

どうする！？俺！
「あなたー、ちょっと見て頂戴」
親父呼びたがったクソババア！！！
「どれどれ？龍介が女に……」
と、俺を見るたび言葉を失う。
何か変かな……、服は着てるし、髪の毛も乱れてないし、まあ変つったら性別だな。
「……龍介……なんだよな……下に来なさい」
説教モーーーーーード☆

「どういうことだね、説明しなさい」
「って言われても、俺……」
「……はあ」
ため息つきてーのはこっちだわ！！
あまりの展開に読者ついていけてねーよ！俺もだけどよ！！
「何か、起きたらなってた」
「今日は学校を休みなさい」
無視かよ。今日俺散々だよ。泣きてえ。
「あーい」

やることがないので、部屋にこもってゲームをしている俺。
ノックの音がする。　俺は返事をした。
入ってきたのはお袋だった。
「……洋服買いに行きましょ」
やる気のなさそうな声で言った。
「なんでー？」
「男の服じゃダメでしょ……」
「うーい」

俺は（元）男だから、女物なんて全くわからなかった。
全て、お袋と店員に任せた。
数着買ったところで帰宅することになった。

「えー、学校いかなきゃ行けねーの？」
「こら、女の子なんだから口調に気を付けなさい」
「俺男だよー」
「まあそうね……」
「制服は買っておくから。先に帰っておいてくれる？」
「うーい」

つーわけで、紙袋両手に一人で家に帰ることになった俺だった。

いちわ：じゃあこれはなんだ（後書き）

私はいつだって本気だ。

にわ：よりによって

大分この体にも慣れたな。　まあ二日目なんだけど……。
お袋の買ってきた制服を来てみる。　スカートなんて初めてだわ。
初めてのはずのスカートが妙にしっくりする。なんでだろーな。
よく考えたら髪の毛が腰まである長さだ。　縛れるようなセンスないし、そのままってのもなー……。
「入るよー、“姉ちゃん”」
ノックもなしに弟が侵入。
弟は中３のガキ。……なんだけども。
女になったとたん、身長が逆になるんだもん。あいつに見下されるなんてよ……。
それによりによって「姉ちゃん」なんて呼ぶなんて……殺すぞ……

「何？シャーペンの芯貰うよ」
「ちょ、待て待て。だったら新品を上げよう」
「マジ？サンキュ」
……あれ？ここらへんに置いたはずなんだけど……。

「ねえ」
「あん？」
振り返らず探しつつ答える俺。

すると、後ろから不意に腰に手を回される。
「ちょ？！」
待てって！近親相姦になる！　つーかどこ触ってんの！？
「なんでさー、あーんな憎い兄貴がこんな可愛い姉貴に変わるんだよ」
「…ぁ…やめ……っ」

「ありえねー」
体育系の部で鍛えた腕の強さには今の俺では勝てない。
ゆっくりと回された手が上へ上へと上がる。
「……やめ…てってぇ……」
涙声になりつつ言う俺。　ほんっと情けねえ。
「……りゅうたぁ…」
ぴた。
手が止まる。　幸い胸にまで腕は回ってない。
「……ふぇ？」
「……んな声出すなって……」
「？」
振り向くと顔を真っ赤にした竜太がそこに居た。
口を抑え、そそくさと逃げるように去っていった。
「……？シャーペンの芯は？」

さんわ：オレなんだ！！

翌日。
俺は女子の制服で階段を下りていた。
うぅ……妙に足がスースーする…。寒い。
「あ……」
そこで、あの弟にあった。
まるで、何か悪いものでも見つけたように呟いた。
俺はポケットから芯を取り出し、突きつけた。
「昨日、渡しそびれたんだけど」
ちょっと怒り気味で。
どうしても、下から竜太を見上げる姿勢になってしまう。
頬を膨らませ怒ったせいか、萌える構図に近いポーズになってしまった。
奴の反応はというと……。
昨日と同じく口を抑え、真っ赤に顔を染め、目を泳がせている。
使えなさそうだったので、胸ポケットに芯を押し込む。
お腹空いた。　朝食を腹に入れますか。
竜太をスルーしようと横を抜けたとき。　腕をつかまれた。
「は？」
「……あ、いや、なんでもない」
……、だったら手を離してくれますか。
「離してよ」
「……！　ごめんッ」
半ば振り払うように竜太は俺の手を離した。
ちょっと痛いんですけどー。

まあそんな事はさて置き朝食朝食♪
今日のは……、目玉焼きにはむ、トーストって普通……。

「ねーえ、龍介。」
お袋が突然話し出す。
「今日から「りゅうな」って名乗りなさいな。」
「はー！？」
まあ、そうだよな…。
「一人称もしっかりね」とお袋。
それも面倒だけどな…。

「あ、あとね、あんたら本当の兄弟じゃないから」

何を唐突に言うんだい……って、は？
「きこえたー？」
…え？……え？
「ほらー、十年前、パパと再婚したじゃない！」
…あ、そういえば……。
昔「似てる名前だから仲良くしなさいね」って言われた記憶があったりなかったり……。
「ごちそうさま…」と俺は無気力に言う。
真実を知った俺は、重い足取りで荷物を取りに向かった。

外に出ると奴がいた。　まるで、俺を待ち伏せていたように。
「姉ちゃん……、オレ…」
「何してんの？遅刻するよ」
俺はその先を聞きたくない。
「え…うん…」
そんなこと知ってるけど？みたいな返事をする竜太。
「ね、ねえ！」
「？」
呼び止められ、嫌々振り向く俺。　嫌でも振り向かないと無視し

てるみたいで気持ち悪いじゃん。

「姉ちゃんを女にしたのはオレなんだ！！！」

……。　嘘だろ……。　なんの利益があって……。

「オレ、姉ちゃんが好き……」

何言っとるんですか。

「さ…最初は惚れ薬を科学部の部長に作ってもらおうと思ったんだよ。

だけど、あいつが世間体を考えろって……。で、でも！オレこれで満足してる」

な…何を馬鹿な…。　これは現実か！？つーか満足すんな！

俺の弟がこんなにホモの訳がねえ……。　死にてえ…。

「き、きいたろ！？オレらは兄弟じゃねーし…、な？」

「「な？」じゃねーーーーーーし！！！」

俺が叫ぶと、それが想定外だったらしく、ぽかんとしている。

「オ…私はあんななんかと付き合う気はない！」

「だけどぉー」

「あんたもそこそこモテるんだろ！？コクった美人とリア充ってろ！！」

捨て台詞を吐いた俺は、なるべく追いつかれないように（っつっても相手は体育系）

全力で走った。　後から追う人影は全くもって見えなかった。

学校――

えーっと、まずは教務室に…っと。

自分の内履きにはきかえたらまずいと思った俺は、客用のスリッパを（勝手に）使う。

「失礼しまーす」
ゆっくりドアを開けた。　電気がついている。
だが肝心の教師がいない。　早かったかな……。
「多田(ただ)君？」
「ぶわぁあ！？」
後ろからの奇襲。　振り返るといたのは、クラスの担任・赤木(あかぎ)だ。
「先生……、校内は禁煙ですよ」
朝からタバコを（しかも禁煙なのに）なんてこいつ……。
「あぁ、すまんすまん、ハハハ」
笑い事じゃねーだろ。　ミスしたら火災報知器鳴るどころか、警察ざただぞ。
「で、多田君？」
「あ、はい」
「へえ、可愛くなったねー」
と、俺のケツを触りセクハラする。
死ねという思いを込め、顔面パンチ。　メガネにゃ当ててねー。
奴は鼻から血を流しつつ、メガネを抑える。
「で、手続きとかいるんすか？」
「そーだなー、じゃあ俺とえっちなk「死ね」
割りと俺は本気で言った。
「……とくにないよ。顔出してもらえればよかった」
「あっそ」
出ていこうと、ドアに手をかける俺。
「先生…いや、俺は本気だからな」
……。なにが？
「好きだぜ」ピシャン。
かき消すように勢い良く閉めるドア。　あんの数学教師ィ……。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5236y/

性転換で⇔リア充ライフ！

2011年11月16日20時19分発行